

夏霜

苗代のころまでむすぶ春の霜民のころをいかなげかぬ

〔日本書紀天武二十九〕十一年七月戊午是日信濃國吉備國並言霜降

〔三代實錄光孝四十五〕元慶八年四月十日庚子天寒殞霜 十一日辛丑霜降 十六日丙午霜降氣寒

十七日丁未夜寒霜降草木葉彫

〔扶桑略記村土十六〕天德四年五月八日丙午霜降尤可爲異

〔吾妻鏡二十七〕寛喜二年七月十六日霜降殆如冬天

〔萬寶鄙事記占天六〕霜 あさはやくきゆるはかならず雨ふるをそく消るは晴 大霜はかならず

雨 京畿内は霜あればかならず天氣よし坂東も同じ西州は霜をそく消ても明日は雨ふる

冬の霜物をからさざるは來年虫多五穀を害し飢饉す

雜載